

令和3年4月

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

渡部 麻衣子（自治医科大学 医学部総合教育部門 講師）

2. 課題名

「技術構成主義」に立つ「生と死」をめぐる倫理の分析と社会的議論の啓発に向けた企画調査

3. 実施期間

令和2（2020）年9月1日～令和3（2021）年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、「人間-技術構成主義」と呼ぶ視座に立ち、技術を通して死生観を照射し、そこに顕在する倫理的課題を技術倫理の観点から論じる領野を開拓することを目指している。「死」という現象を構成する新興技術を対象として、分析対象とする事例の絞り込み、調査対象フィールドとの関係の構築、社会的議論に必要な理論的基盤と実践的手法の精緻化を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、技術構成主義に立つことの是非も含めた理論的検討、対象とする科学技術と ELSI の整理、日本の文脈への着眼と取り組み方法など、実践を行う前段階としての設計強化を期待した。

企画調査の結果、「技術構成主義」の考え方についてチーム内で理論的検討を深め、「人間-技術構成主義」へと初期設定を改めた上で、文化人類学的知見からみる技術倫理と死生観の変容の分析や、フィールドワークから日本特有の風習を発掘し、スペキュラティブ・デザインのアプローチによって ELSI 論点の導出を試行するなど、多様な視点での取り組みが着実に推進されている。しかしながら、個別項目単位での進捗と仮説構築の段階にとどまっていると思われ、各項目をいかに統合し、どのような哲学的方向性の仮説の上に立って中心的課題を設定するのか、「人間-技術構成主義」に立つ分析的視座の確立については検討の途上であり、目標を達成できていない事項がある。理論的に立脚する立場をさらに検討し、それぞれの取り組みや要素の相互関連性を明確に設計した上で、包括的実践につながる研究開発構想の具体化が進展することを期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)